

公益財団法人札幌交響楽団

第66期 事業計画書

(2025年4月1日～2026年3月31日)

公益財団法人札幌交響楽団は、定款第2章第3条に基づき、交響管弦楽による音楽芸術の普及向上に関し、必要な事業を行い、もって札幌市及び北海道における文化と教育の振興に寄与することを目的とする事業を行う。

一般会計事業

定款第4条に掲げる事業を次のように行う。

(1) 札幌交響楽団を編成し、及び維持すること。

首席指揮者・名誉音楽監督・友情指揮者・正指揮者、首席客演指揮者 各1名、楽団員78名で維持編成する。

(2) 交響管弦楽の演奏を行うこと。

オーケストラによる演奏会を116公演開催する。

■自主公演 合計45公演

○定期演奏会(第668回～675回)・・・16回(8プログラム各2公演、全16公演)

定期演奏会はオーケストラのレパートリーを増やし、札幌交響楽団の理念のひとつ『演奏の質の向上』を目指し、世界水準の演奏を提供する。

今シーズン、エリ阿斯・グランディが首席指揮者に就任する。ドイツ・ハイデルベルクなどの歌劇場で研鑽を積み、PMFにも参加したグランディは就任前からマーラー・シリーズを企画、就任記念の第668回定期演奏会ではマーラーの交響曲第2番「復活」を指揮、その後も670回、674回の定期演奏会に出演する。グランディの他では、2023年の定期演奏会で好評を博し、現代の最も多才で非凡な音楽家の一人であるハインツ・ホリガー、BBCスコティッシュ交響楽団首席指揮者、シアトル交響楽団音楽監督などを歴任したトーマス・ダウスゴー(初共演)、下野竜也、川瀬賢太郎が出演。また尾高忠明

は2024年2月の定期演奏会で急遽降板せざるを得なかった時のプログラム、エルガー交響曲第2番で出演する。

○hitaru シリーズ定期演奏会・・・4回

利便性の高い札幌文化芸術劇場 hitaru で平日夜7時から開催。邦人作品もしくは現代曲とよく知られる管弦楽曲の組み合わせである。第22回 hitaru シリーズではウィーン・フィルハーモニー管弦楽団第1コンサートマスターのフォルクハルト・シュトイデが出演。アカデミー作曲賞、英国アカデミー賞作曲賞を受賞した「シンドラーのリスト」より小品などを演奏する。

○名曲コンサート・・・4回

敷居が高いと感じられやすいクラシックの名曲を親しみやすく紹介する。繊細な音色の大切さを伝えてきた前首席指揮者バーメルトはモーツァルトの名曲を、続くポンマーとのコンサートは2015年に彼が札幌の首席指揮者に就任するきっかけとなったブラームス交響曲第2番を、首席指揮者グランディはベートーヴェンの交響曲「田園」をまた年度末2月は宮川彬良による名曲のパレードである。

○特別演奏会・・・合計21回

・札幌市内・・・11公演

「札幌シンフォニック・ブラス」・・・・・・・・・・1公演

「夏休みスペシャル」・・・・・・・・・・2公演

「札幌の第9」・・・・・・・・・・2公演

「低料金コンサート」・・・・・・・・・・4公演

「ユニバーサルコンサート」・・・・・・・・・・1公演

「札幌交響楽団 in ふきのとうホール演奏会」・・・・1公演を予定。

シンフォニック・ブラスは吹奏楽曲をオーケストラ演奏で体感できるほか、夏の吹奏楽コンクールの課題曲を演奏する。夏休みスペシャルは0歳児から入場可能な演奏会、年末

恒例のベートーヴェンの第9、小編成の管弦楽曲を届けるふきのとうホール演奏会のほか、札幌市との共催公演「低料金コンサート」を Kitara、hitaru でそれぞれ2公演ずつ開催する。またみんなで音楽を楽しむ体験型演奏会として「ユニバーサルコンサート」を開始する。

・北海道内・・・9公演

4月27日・・・砂川市

5月25日・・・新ひだか町

9月10日・・・長沼町（萬田記念財団協賛公演）

10月23日・・・中標津町

10月24日・・・遠軽町

1月17日・・・小樽市

1月18日・・・苫小牧市

2月20日・・・洞爺湖町

2月21日・・・七飯町

遠軽町は2025年が生田原町、丸瀬布町、白滝村との合併20周年、中標津町は中標津町総合文化会館が開館30年を迎えることから記念行事としてコンサートを開催する。

・北海道外・・・1公演

2月 5日・・・東京

■依頼公演・・・合計45公演

・札幌市内・・・30公演

・北海道内・・・15公演

札幌市内の依頼公演には、札幌市芸術文化財団主催、道新文化事業社主催公演のほか、ほくでんファミリーコンサート、HTB主催ジルベスターコンサートとイチオシクラシッ

ク、道銀ライラックコンサート、北洋銀行 Presents クラシックコンサート、タナカメディカルグループ主催無料コンサート、入場料全額を音楽振興活動へ寄付する北ガスグループクラシックコンサートなどを予定。北海道内公演は稚内、釧路、栗山にて札幌定期演奏会とし、空知信金主催、そして創立100年となる網走信用金庫主催の演奏会に出演する。

(3) 青少年の音楽鑑賞及び演奏に関し、指導を行い、その普及を図ること。

■音楽教室・・・合計26公演

- ・札幌市内・・・16公演
- ・北海道内・・・5公演
- ・北海道外・・・5公演（文化庁依頼による学校訪問、山陽・山陰方面で調整中）

文化庁依頼による学校訪問は例年3月末に訪問先が決定となる。予算は2024年度開催実績5公演を参考にして策定する。

○ワークショップ（音楽創造体験プログラム）

教育への貢献事業として小中学校等へ少人数の楽団員が出向き、演奏を行い、ともにパフォーマンスをするなど参加型のプログラム。大学ではワークショップと講義を実施、演奏会への来場と結び付けている。また、文化庁依頼の学校訪問では、オーケストラ演奏会の事前訪問として、ワークショップを実施する。

○楽器講習会（演奏指導）

楽器の演奏指導を通して楽団員と児童・生徒が音楽を通して交流を深め、技術向上を目指す。札幌市中学校吹奏楽研究協議会からは毎年講習会の依頼があり、楽団員を2日間派遣、中学生の演奏技術向上を図っている。

(4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業を行うこと。

■広報宣伝

プログラムの発行

定期演奏会ははじめ自主公演では毎回、音楽評論家等による解説、楽団の活動報告、楽団員紹介を載せたプログラムを発行、公演来場者及び会員、関係先に配布する。

ニュースレターの発行

活動報告、公演案内、チケット発売情報など、最新情報を掲載したニュースレターを随時発行する。また定期会員へは、定期演奏会前にメールで開催案内を送信する。

ホームページ、フェイスブック、X（旧ツイッター）、Instagram による広報、YouTube からの情報発信

札幌の公式情報＝ホームページで発表

フェイスブック、X＝主にチケット発売情報や当日券情報などを周知するために活用

Instagram＝写真を主に興味喚起から認知向上を目的として活用

YouTube＝定期演奏会のオンラインプレトークや出演者のメッセージを配信する

■その他の公演事業等

アンサンブル

クラシック音楽普及のために楽団員によるアンサンブル演奏会を行う。コンサート

ホール以外の様々な場所での記念演奏などで一流の音楽と身近な札幌をアピールする。

出張演奏

特別支援学校、高齢者向け施設、病院などに楽団員が出向き、コンサートに出かけることが困難な方々に音楽鑑賞の機会を提供するなど、社会貢献活動を引き続き積極的に行う。

インターンシップ生の受け入れ

教育機関などからの依頼により事務局ならびにステージ業務を体験するインターン受け入れを継続。アマチュアとして事業を行う時との違いを体験してもらい、プロとして心構えを体得する。

指揮者、楽団員、事務局員によるレクチャー

新聞社、放送局、企業等と提携して、クラシック情報の発信を行う。生の声により、舞台とは違う音楽家の生身の姿を紹介する。また企業の研修会などへ出向き、札幌の活動を紹介する。

周年特別会計事業

定款第4条に掲げる事業を次のように行う。

(1) 札幌交響楽団を編成し、及び維持すること。

首席指揮者・名誉音楽監督・友情指揮者・正指揮者、首席客演指揮者 各1名、
楽団員78名で維持編成する。

(2) 交響管弦楽の演奏を行うこと。

「一般会計事業」として実施。

(3) 青少年の音楽鑑賞及び演奏に関し、指導を行い、その普及を図ること。

「一般会計事業」として実施。

(4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業を行うこと。

「一般会計事業」として実施。

2031年の創立70年に向けて海外公演を含め周年事業開催の検討を開始する。

資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類

(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

1. 資金調達の見込みについて

当期中に資金調達の予定はありません。

2. 設備投資の見込みについて

当期中に重要な設備投資(除却または売却を含む)の予定はありません。